

スプーンやフォークを使って食べることができる

場面設定

食べさせる前に食べ物の入ったお皿をゴム敷きの上におきましょう。お皿はある程度ふちが高く、重みのあるお皿を使いましょう。スプーン、フォークは柄が太くて持ちやすいものにしましょう。献立は子どもが好きなもので、すくいやすいものがいいでしょう。スプーンの場合は、ポテトサラダ、ごはん、煮たかぼちゃ、一口に切ったハンバーグなどもいいでしょう。フォークの場合は突き刺しやすいもので、ソーセージ、にんじん、またリンゴやバナナなどの果物もいいでしょう。子どもが座るイスは食事をするのにちょうどよい高さにしてあげてください。最初のうちは一回の食事の献立すべてで練習するのではなく取り組みやすい一部の献立やおかずから始めましょう。例えば献立のうち「ふりかけご飯」だけ練習して、後の献立は指導者が食べさせるなどです。家庭で行う場合は3回の食事のうち1番時間的にゆとりがある時間に練習し、一人で食べられる献立を少しずつ増やしていきましょう。家庭で行う場合は家族全員で協力しましょう。

プログラム 1

目標

フォークで突き刺した食べ物を、フォークで突き刺してあれば一人で食べることができる。

スプーンですくった食べ物を、スプーンですくってあれば一人で食べることができる。

ステップ 1

(食べ物を刺してある)フォークを持たせて、介助したまま口まで運んで食べさせます。うまくできたらほめてあげましょう。 ス

ステップ 2

(食べ物を刺してあるフォークを介助して持たせた後)フォークが子どもの口の手前まできたら、介助の手を離してそこから自分で食べさせます。うまくできたらほめてあげましょう。 (食

ステップ 3

(食べ物を刺してあるフォークを介助して持たせた後)フォークが子どもの胸の前まできたら、介助して手を離してそこから自分で食べさせます。うまくできたらほめてあげましょう。

ステップ 4

(食べ物を刺してあるフォークを介助して持たせた後)子どもがフォークを持ったのを確認したら介助の手を離し、そこから自分で食べさせます。うまくできたらほめてあげましょう。

ステップ5

「はい、これを持って」とフォークを持つように指示します。しばらく待っても自分からフォークを持ちにいかないようだったら、かるく介助しましょう。うまくできたらほめてあげましょう。

各項目ができたらずその度にほめてあげましょう。フォークでできたらスプーンでも練習しましょう。 を自分ひとりでできるようになったら、プログラム2に進みます。

プログラム2

目標

フォークで食べ物を刺して食べることができる。

スプーンで食べ物をすくって食べることができる。

ステップ1

子どもの手に重ねるように介助してフォークで食べ物を刺します。突き刺すことができたらず介助の手を離して一人で食べさせます。うまくできたらほめてあげましょう。

ステップ2

子ども手を上から軽く添えるように介助してフォークで食べ物を刺します。突き刺すことができたらず介助の手を離して一人で食べさせます。うまくできたらほめてあげましょう。

ステップ3

子どもの手首をかるく持ちフォークで食べ物を刺します。突き刺すことができたらず、介助の手を離して一人で食べさせます。うまくできたらほめてあげましょう。

ステップ4

子どものひじをかるく持ちフォークで食べ物を刺します。突き刺すことができたらず、介助の手を離して一人で食べさせます。うまくできたらほめてあげましょう。

ステップ5

「はい、これを持って」とフォークを持つように指示します。しばらく待っても自分からフォークを持ちにいかないようだったら、かるく介助しましょう。うまくできたらほめてあげましょう。後は一人で刺して食べるはずです。

各項目ができたらずその度にほめてあげましょう。フォークでできたらスプーンでも練習しましょう。フォークやスプーンの正しい持ち方はプログラム1,2ができた時点で教えてあげましょう。このプログラムの時には握り持ちになっていてもかまいません。

門脇陽一 西村亜希子